



平成23年10月21日
国土交通省水管理・国土保全局
独立行政法人土木研究所
水災害リスクマネジメント国際センター

タイにおける洪水の状況について

関係機関等から地形情報や浸水情報、降雨データ等の収集に努めるとともに、それらのデータを活用し、今後の復旧・復興の支援の検討に役立つようチャオプラヤ河流域の浸水予測を行っている。

「概要」

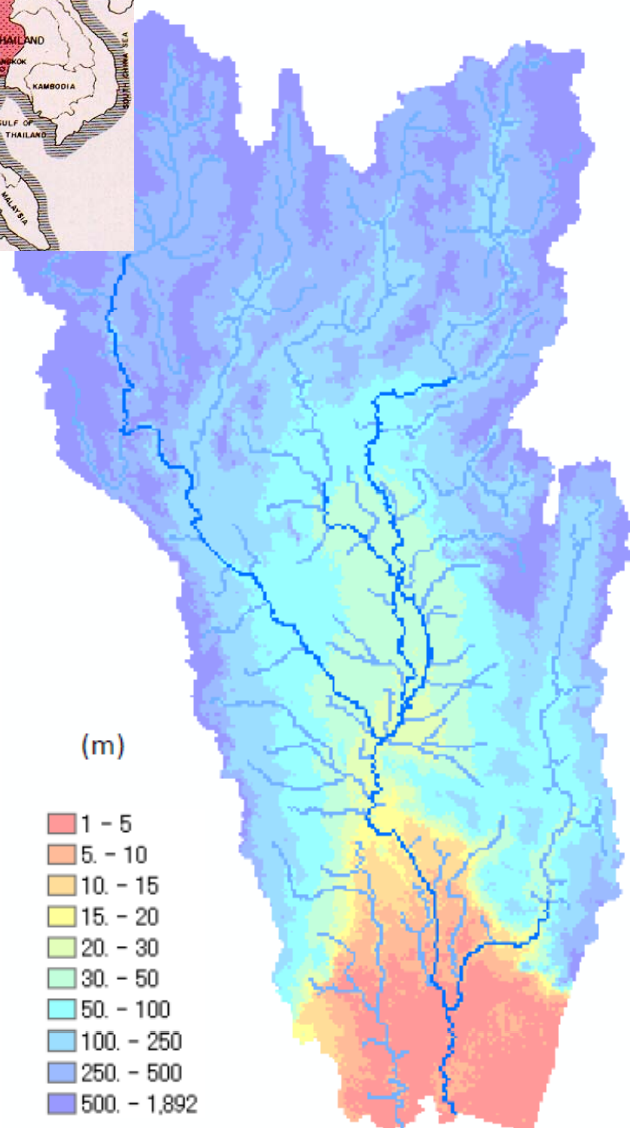
- ・ チャオプラヤ河の下流域には広範な低平地が広がっており、河川勾配はきわめて緩やかである。
- ・ 6月から9月までは平年の1.2~1.8倍の降雨を記録。
- ・ 今後の降雨の状況にもよるが、アユタヤの周囲は11月末も浸水が残る可能性があるというシミュレーション結果を得ている。

【問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 吉野
(内線：35343) 夜間直通 03-5253-8444

独立行政法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター 佐山
直通 029-879-6809

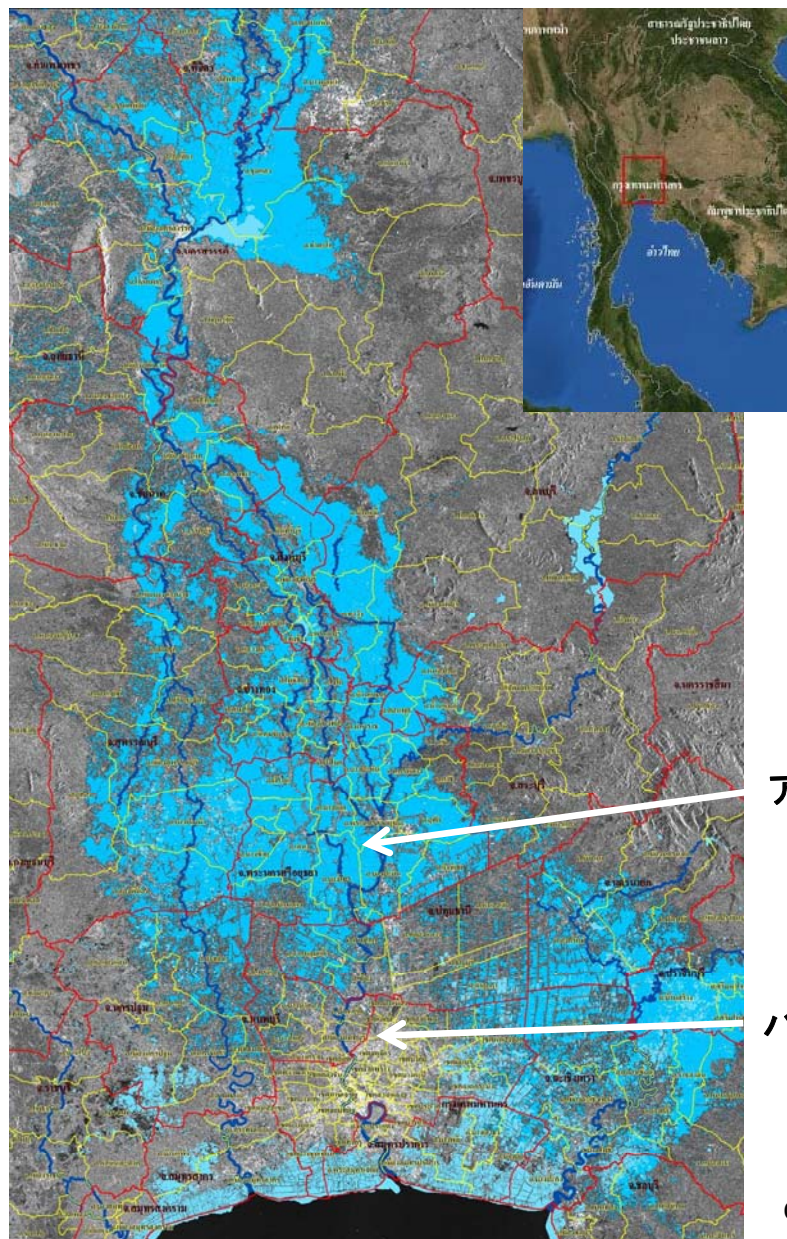
チャオプラヤ河流域の浸水状況



- (m)
- 1 - 5
 - 5 - 10
 - 10 - 15
 - 15 - 20
 - 20 - 30
 - 30 - 50
 - 50 - 100
 - 100 - 250
 - 250 - 500
 - 500 - 1,892

(標高)

※ HydroSHEDS (USGS)の地形図をもとにICHARMで作成。



アユタヤ

バンコク

0 24km

タイの衛星画像(10月17日)(※青色が湛水域を示す)
 出典: 技術開発局の衛星画像、<http://www.gistda.or.th>

降雨状況

6月から9月までの4か月降水量は、タイ北部のチェンマイで921mm(平年比134%)、タイの首都バンコクで1251mm(同140%)、ラオスの首都ビエンチャンで1641mm(同144%)になるなど、インドシナ半島のほとんどの地点で平年の約1.2倍から1.8倍の多雨となった(図中央)。
(出典: 気象庁平成23年10月12日記者発表)

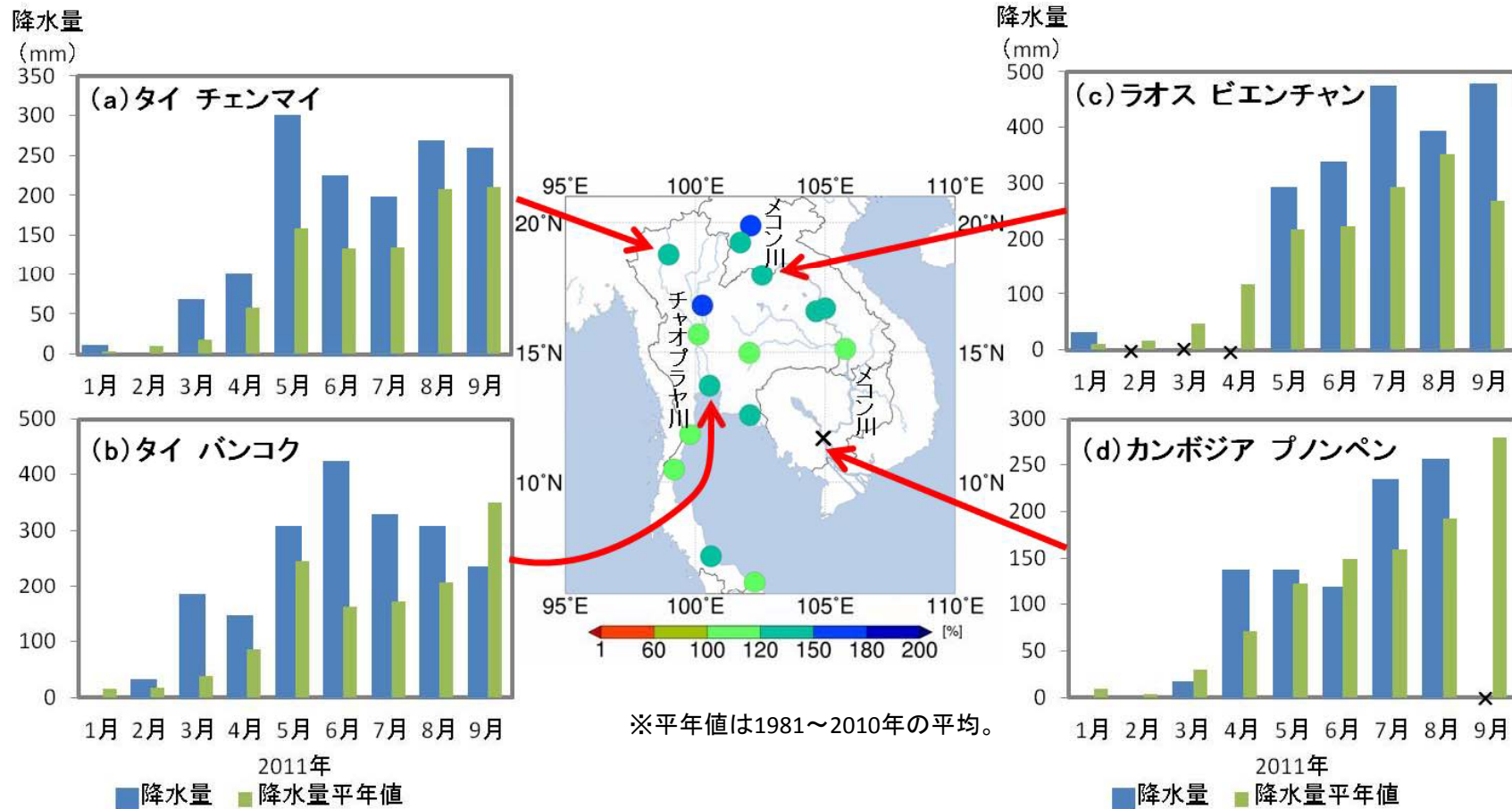
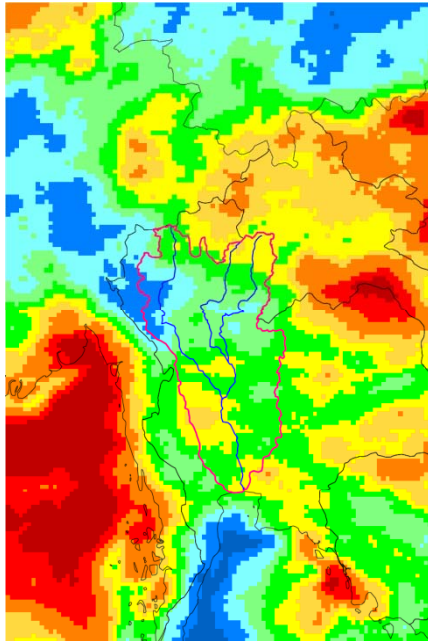


図 2011年6~9月の4ヶ月降水量平年比の分布と主な地点の月降水量の経過
(出典: 気象庁平成23年10月12日記者発表)

チャオプラヤ河流域における累積降雨量の比較(7月～9月)

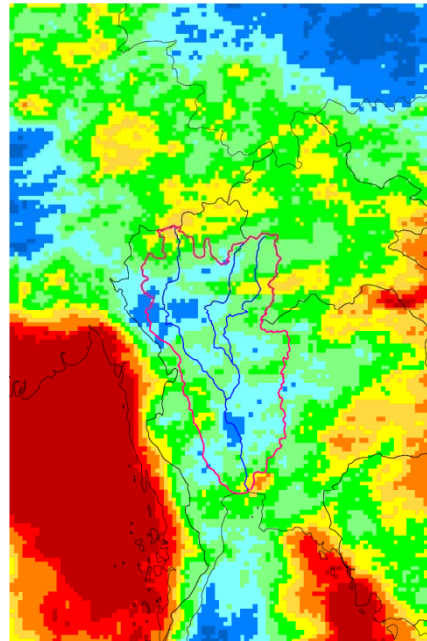
DATA/ GSMaP MVK(2008)
GSMaP NRT(2009-2011)

2008



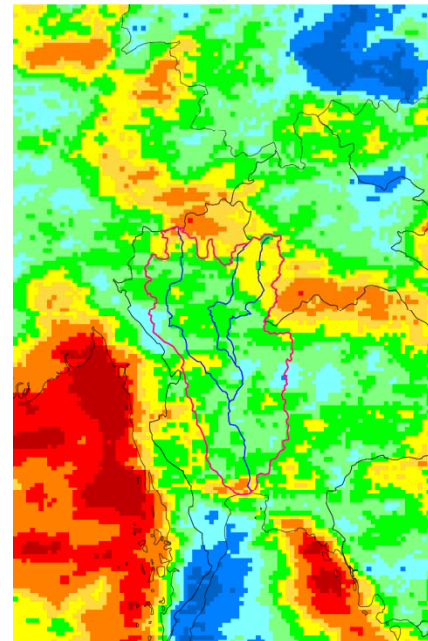
518mm

2009



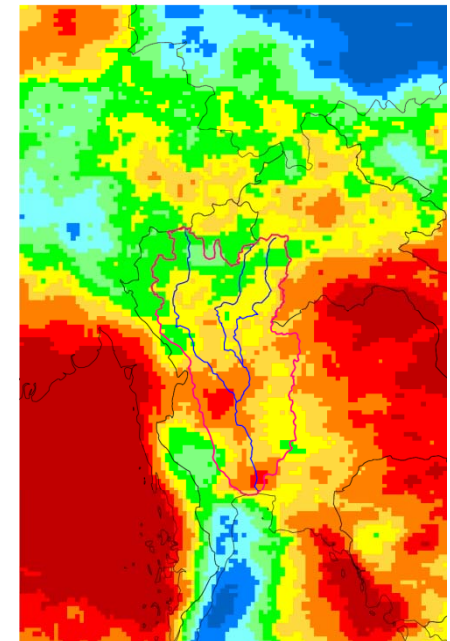
424mm

2010



527mm

2011



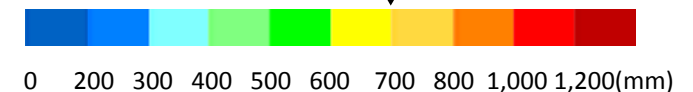
710mm

Basin mean precipitation in Chao Phraya River Basin from July to September

Average(Bangkok)



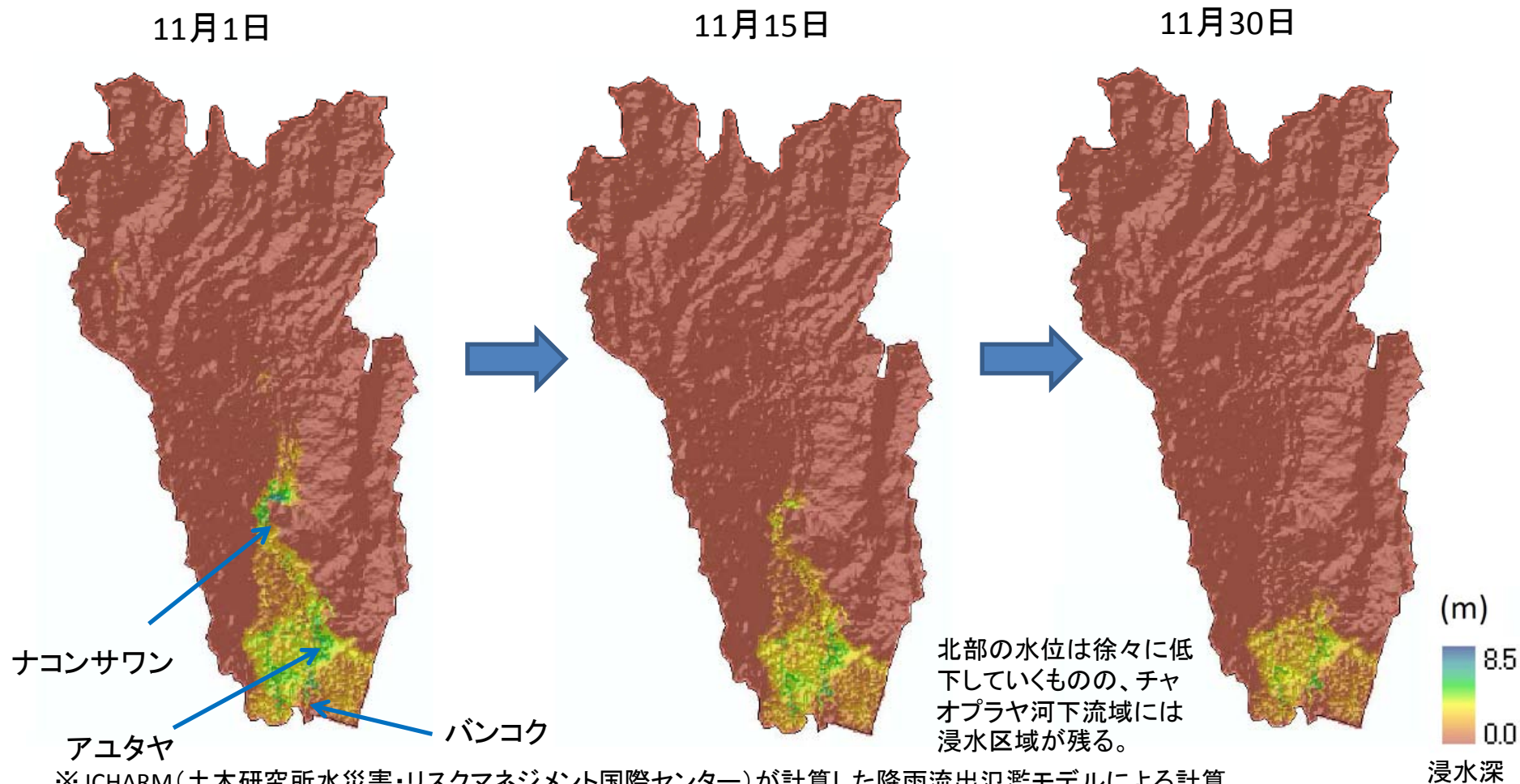
本解析は宇宙航空研究開発機構(JAXA)が作成した衛星による「世界の雨分布速報」のデータ(GSMaP降雨プロダクト)(<http://sharaku.eorc.jaxa.jp/GSMaP/>)を利用して、社団法人国際建設技術協会及び株式会社建設技術研究所により実施



今後の浸水想定

11月末も浸水が残る可能性があるというシミュレーション結果を得ている。

(ICHARM 10月17日作成)



※ ICHARM(土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター)が計算した降雨流出氾濫モデルによる計算。

(2011/7/11~10/14衛星観測降雨、20011/10/14~10/21気象庁予測値、2011/10/22~11/30を2010年度の実績降雨量を与えた場合の想定浸水深。)

※ダムや堤防の効果、河口潮位の影響は考慮していないので、特に下流域のバンコク付近の浸水については、不確実性大。

※地形図はHydroSHEDS(USGS)をもとにICHARMで作成。

※次回の大潮は10/30(日)であり、浸水拡大が懸念される。

